

2024年9月28日  
第57回東京同窓会実行委員会  
実行委員長 神保 渡

## 『第57回東京同窓会総会・懇親会』総括

### 実施概要

◇実施日時：2024/6/8（土）12:30～16:00 ◇実施会場：アルカディア市ヶ谷3階 富士の間

◇参加費：一般 11,000 円、準若手 8,000 円、若手 3,500 円 家族割を新規導入

◇会の名称：縣陵46回

◇テーマ：「Restart ～新たな100年への第一歩～」

### 前回報告(2024年5月合同幹事会)からの活動報告

- ・総会・懇親会事前準備(各種制作物作成、事前入金確認)、当日対応
- ・後日対応事項の推進(来賓・寄付者礼状送付、アンケート集計、会費未納者フォロー、決算対応、来期実行委員への引継ぎ、総括とりまとめ 等)

### 活動総括

◇テーマ策定、会の名称策定

テーマは、前年に100周年という大きな節目を終えた年として、次の100年に向けて母校および東京同窓会が続いていく事を願ってのテーマとした。正直な所テーマに沿った企画は懇親会のオープニング映像くらいだった。今後についてもそこまで深く考えてテーマを決める事はないと思う。会の名称も特にこだわりはなく、ほぼ使っていないのが事実。

◇懇親会企画(三味線演奏、オープニング映像、応援団パフォーマンス)

同期の演奏家をお願いして三味線演奏を行ったが、事前打ち合わせで普通の曲をやるのでもいいが、是非応援歌を演奏してほしいと頼んだ。結果、本人の思い入れのある「縣陵祭記念歌」と打ち合わせ時に選んだ「朝に仰ぐ」を歌うことにした。どうなるか不安もあったがやはり応援歌は盛り上がる事が実感でき、三味線企画の反響は非常に良かったと思っている。オープニング映像は神保の強い希望で台本を書いた後、映像関係の仕事をしている同期に無償でやっていただいた。こちらも好評だったのでやってよかったと思う。

応援団については直前まで同期の元応援団員の出席が見込めず非常に頭を痛めた。45回の先輩を頼ろうとしていたが、うまくコミュニケーションが取れず苦心した。約1か月前に応援団員の出席が決まり、急ピッチで準備をし先輩の助けもいただき何とか形になったが、今後も応援団の同期がいない場合の対応について、支援委員会を中心に手助けしてあげて欲しい(最悪応援歌を流すだけでもいいとするか、必ず団長的な役割を用意するならば未經

験者に教える人を紹介するとか)。

#### ◇会報企画検討・制作支援

引継ぎを踏まえ、前年 11 月から準備を始めた。100 周年関連の記事のボリュームがあった為、実行委員の意思として前年の 12P から 16P に増やした。広告については毎回出している広告主が今年も OK なのか?の確認が中々取れず、結果的に予定より多くの出稿依頼を出した結果、広告スペースが足りない状況もあった。原稿依頼についてもどこまでが実行委員の役割なのかははっきりしない部分があったので次回以降に活かしてほしい。制作費の高騰で広告費の UP も必要と思われるが、ここは実行委員が決められる事項ではないので負担をかけないようにしてほしい。

上記の問題の原因として、実行委員を通さず、直接幹事会に広告掲載の連絡をしていることがあるので、幹事会ではなく実行委員に申し込みするようにすべき。また、『足りなかったら出す』と言うのは非常に対応に困るので、明確な意思表示を早くしてほしい。今年はギリギリになって返事がなかった広告主が幹事会広報委員の一言で出すことが決まったりした。幹事会マターで一部の広告依頼や調整をやるならはっきりしないと実行委員は困る。

#### ◇総会・懇親会準備関連

##### (予算策定・会計対応)

予算については前年ベースで当初作成したが、アルカディアの経費が全体的に 1 割程度 UP となり計算が崩れた(値上げは 4 月に実施した模様で連絡はなし、4 月末の会場下見時に確認した)。他にも手土産代も去年と同じ羊羹が値上げしていたりと影響あった。

当初から「決算で黒字は目指して欲しいが、まずはやりたい事を企画して、結果として赤字になったらその時はその時」と言っていたのであまり気負いはなかった。

寄付金は見込みが立てにくいという前提で最初は 30 万、見直し後は現実的な 10 万とし、結果も 10 万程度だった。読みにくいが今後も 10 万が目途でよいと思う。

##### (会場手配・日程検討)

会場、日程とも決まっていたのでそれに沿って準備した。宴会プランも前年同様とした。変更点として総会と懇親会を分けずに行ったが、特に大きなトラブルはなかったと思う。

##### (申込集計)

Web からの申し込みは 180 件(内出席 155 件)で、特段問題はなかった。

はがきからの申し込みは、195 通受領(内出席 36 通、欠席 159 通(物故連絡 36 通含む))。

物故者の連絡で何度も連絡しているがまだ届くという内容が数件あったのでメンテナンスをお願いしたい。昨年の報告にもあったが、このような連絡は総会・懇親会の申込時だけでなく、常時受けられるように考えていただきたい(東京同窓会として常設の郵送窓口の設置

など)。

今年から受取人払いはがきは取りやめ、申込記入用紙のみ送付し、郵送連絡希望者が切手代負担の上送付する形としたが、切手貼り忘れは195通中13通(うち欠席者11名)。欠席者分は経費負担になったが想定の範囲であった。

なおメールのみでの応募も3件あった。

#### (集客(声掛け))

集客については昨年並の210名を目標とした。

実行委員会として、同期を経由して直接コンタクトが取れる方を中心にSNSや電話などで呼びかけを行い、幹事会には同期を中心に上の世代の声掛けをお願いした。「何回生の誰が申込済んでいて、あの人は行くと言っていたがまだ申し込んでいない」といった情報はかなり有用だったので、実行委員が報告しなくても簡単に申込状況が幹事会メンバーも見られるようになると思う。

結果210名の目標には達しなかったが194名の参加申し込みとなり来賓6名を加えて200名の大会にぎりぎり届いた(当日参加3名、当日欠席6名で純粋な参加は197名)。

参加者の申込推移は、5/9(50名)、5/16(98名)、5/20(114名)、5/24(145名)、5/29(169名)、6/1(185名)、6/3(188名)、6/7前日で194名。

年齢層は60歳以上82名(前年86名)、59歳以下109名(前年117名)うち同期の46回42名となった。

#### (家族割の新設について)

目的、狙いは少しでもこの施策を機に参加者を増やしたいという所だったが利用者は一組(46回生親子)。割引額も1000~2000円で効果は低かった。続けることで浸透することもあるかと思うが無理して継続しなくても良いと思う。会費の説明文が長くなりわかり辛かったとも思う。

#### (来賓・恩師招待関連)

恩師は春の母校愛のリレー(4/29開催)時には4名参加があり、他の恩師も含め招待をした結果、1名(武居先生)が東京同窓会にも参加いただけた。

来賓については幹事会指定の方へ案内状を送る形で行った。参加者の変更や代理出席もかなわず不参加となる形も多く、想定した8名から5名の参加にとどまった。

なお今年から「代理出席者に改め案内は出さない」というオペレーションで行い混乱はなかった。礼状についても特に指示がなかったので例年通り送った。

#### (総会・懇親会費事前入金確認)

財政委員会と連携して入金情報を確認したが、実行委員が直接確認できない為、相応の負荷

はあった。オンライン化によって今後解決することを願う。

(学校からの配布物手配)

学校とのやり取りは校長との接点があった二木さんをお願いした。結果として、学校側からは縣陵新聞を事前にいただき、直近の資料は手配出来なかったが大きな問題ではなかったと思う。

(キャンセル料発生タイミング・配布物最終準備)

キャンセル料発生タイミングについては前年にならって6/3(月)とした。

そこからの出席者名簿・名札作成・テーブル割の最終化検討になるので大変ではあったが、結局ギリギリに参加表明される方が多く、名簿の完成は6/6(木)となった。実行委員としては前日6/7に有休を取って対応する位の覚悟が必要だった。今年は臨機応変に動けるメンバーが多く何とかあったが今後の不安要素ではある。

名簿作成の為の名札シートを購入した後、去年の残りが備品として濱田さんに預けてある箱の中に入っている事がわかり無駄になった。箱の中身は早めに実行委員が一度確認しておくとうまいだろう。

◇総会・懇親会当日

(準備関連)

会場が使える9時から準備を開始し、主に配布資料の袋への封入や各種リハーサルを行った。当日の流れは1週間前から毎日WEBMTを行い共有していたこともあり、手伝いの同期も大きな混乱なく準備出来た。

実行委員で用意した配布物は参加予定者を踏まえ210枚としたが、幹事会経由の配布物は300枚あり、だいぶ無駄になった。紙の質も差があったが安いもので問題なかったと思うので予算厳しい中で削れる部分だったと思う。

(受付誘導・ロビー対応)

受付については、当日参加が3名、当日連絡なしの欠席も2名(連絡あり4名)いたため戸惑いはあったが、同期が連携を取り大きな問題はなかった。

今年は松本の愛のリレーで法被を使っていたため、それを東京でも使ってからクリーニングする事とし、松本からのバスで持ってきてもらい着用した。法被を着ている人が実行委員というのは分かりやすかったと思う。

物販については、実行委員の中で思い出に残るものという強い思いがあり、ワイン販売を同期のついでで用意した。100セット用意し売れ残りも危惧したが完売となり、収支面でも貢献してくれた(1セット200円の寄付により20000円の収入)。

また木下製印社によるはんこの販売からも17500円(35個販売)の収入増となり非常に助

かった。

縣陵 100 周年記念 CD 販売も行ったが、こちらは売上からの寄付対象ではなかったので実績は未確認。

#### (総会進行)

総会自体の進行は大きな問題はなかったが、発表者の為に用意した椅子を案内しておらず、場所も微妙だったため、自席から登壇の形となってしまったのは反省点。

今年から来賓も参加した総会になったが特段問題はなかったと思う。

書記担当として次期実行委員の代から 2 名選出が必要だったが、47 回生自体の参加が少なく直前まで担当者が決まらず苦慮した。最悪 46 回生で担当するつもりだったが、早めに手だてをするべきだった。

#### (懇親会進行)

総会から続けての懇親会に変更したが問題はなかったと思う。ステージの撤去等で 5 分程時間を取ったが間延びせずに懇親会を始められた。総会との切り替えという意味も込めてオープニング映像を用意したが、会場を暗くして全員を集中させる意味でも価値があったと思う。ただし毎年作成するのは実行委員の負担にもなるので、楽しんで作れるなら作った方がいいよという程度で引継ぎはしたい。なくても問題はない。

来賓挨拶、乾杯挨拶については、予定より時間はおしたが仕方なしと考える。

その他、三味線企画、応援団企画、たすきの引継ぎなど概ね予定通り進行した。

全体写真撮影時は去年の反省を踏まえカメラマンがマイクを持つようにした結果、時間がかからなかったのが良かった。

#### (終了後オペレーション)

アンケートについては 102 名 (web 59 名、紙 43 名) の回答があり、前年の倍となった。会場机に QR コードを置いて回答を促した事が成果に繋がった 1 つの要因と考える。紙の回収は会場出口付近に担当の同期を配置し声掛けを行う事で回収忘れを防げたと思う。

#### ◇総会・懇親会終了後

##### (当日キャンセル者 キャンセル料回収対応)

当日払い予定の当日キャンセル者が 2 名発生し、キャンセル料回収対応を実施した。1 名は電話連絡後すぐに振込いただいた (当日出席のため会場に向かう途中で倒れられたとの事)。もう 1 名は単純に日付を間違えていたとの事。電話連絡後もしばらく振込がなく、盆明けに 2 回目の督促連絡を手紙で送り、8 月末に振込いただいた。よって未回収は 0 となった。

#### (引継ぎ関連)

8/3 幹事会主催で 47 回生への引継ぎ会を実施 (47 回生 6 名参加)。46 回生との細かい引継ぎは 9/13 に実施。引継ぎ内容については、過去の資料とともに、昨年作成していただいた「運用マニュアル」があるのでそちらをベースに追記する形にしている。

9/13 は 47 回生 6 名の参加。みんな前向きに担当決めややりたい事について活発に議論してくれていて、とても頼もしく感じた。

(会計対応)

上記の通り、物販による収入増の恩恵もあり、別紙のとおり +22,866 円となった。